

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

落山笑顔
完

八九百...

12

15

13
1984
25

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
JAPAN
Tokyo

18
1984
25



席



あつた話の名家も風調

空物かき其さる酒宴へ遣

るめ口とやえぬ一書は仕立

一寸さし紙遊き唇を聞上子の

耳と川と吐ふ甲はしり哉

ゆるはくはのらと世の
何のちあまのり新

いぬのまのま

春宵

しゆんせう 一刻ハ千両及具とかやいる詩の
定むむ二東方翔夫婦乃森物語小
[女房] ち一兵部一のちやア志んやハ
ひよんあるを思ひ出ーやーア、おま
とつちが新枕のとき 恥うーいやら
うきしん屋ちんくちといん
らと何百昔さきさき屋らあわく

つらちやアキコがいそくはるやうぞく 方き
ホウ 今 千 年 三 一 が 若 く ハ ナ ア

京鹿子

ひまゐ 女 三 と 既 会 者 者 合 テ 廿 良 ア ノ
つちハ 長 唄 の 内 に ぐ も 京 麻 子 の 上 が
多 ん ぎ ご づ い か ら び の ぐ も の ぞ ん ま じ ま じ
廿 一 ヤ ア な ぜ ん ど ち も あ り ぬ ぬ
ヲ、あ ひ ぶ そ ち と ち か 文 句 が こ ち に ぐ

ふもつふふ 廿 一 ヤ あ り 極 ち う ち に 極 く
このち と 京 麻 子 の 上 は 甚 ま じ で じ で
ア や 甚 ま じ と ち や ア い つ そ 甚 ま じ 極 ち よ
廿 一 ヤ あ り 極 ち う ち に 極 く
廿 一 ヤ あ り 極 ち う ち に 極 く

系圖

山 家 の 百 姓 二 人 と り て 廿 一 ヤ あ り 極 ち う ち に 極 く
そ の 甚 ま じ と ち や ア い つ そ 甚 ま じ 極 ち よ
そ の 甚 ま じ と ち や ア い つ そ 甚 ま じ 極 ち よ

つんづがたき先祖ハ武士ぞんべい
イマおとが家ハ武士どころでハるハ桓武
天皇九代乃らうおん徳七長壽天皇の
未孫氏孫坊毎々乃家ぞもさ
て平氏源氏ハ
源次乃年比のといやうなるあい名此
先祖ハあい

懐胎

いさ吉言をこ乃由志ふくハ
神田祭で半公がつんを免ぞやうかふ
やら城礼ガ海ととあふちをよいつの
まふうをらがかいこれ中ふふく出さ
音アイサ今ふんくかとりありやん

熊坂長靴一子長本公ニ書一七カ此
いいらしざかり子さつて花アと

出^まけ^けち^ちり^りと^とり^りと^とけ^けり^り六^{ろく}の^のど^どう^うふ^ふて
半^ま端^はの^のく^くん^んと^とあ^あち^ちお^おび^びに^にし^し 長 十 七 五
長^{ちや}ち^ちや^やあ^あの^のさ^さま^まい^いゆ^ゆく^く子^この^のよ^よい^い巾^{きん}着^{ちゃく}を^を
さ^さけ^けを^をつ^つさ^さが^がら^らう^うは^はほ^ほく^くは^はあ^あい^いち^ちや 長 相
イ^いヤ^やが^がら^らう^うあ^あん^んを^を古^こい^い巾^{きん}着^{ちゃく}は^はい^いち^ちや 長 見
ハ^ハテ^テも^もつ^つさ^さい^いあ^あい^いなる^{なる}り^りの^のど^ど

下^か帯^{おび}

口^{くち}六^{ろく}後^ご屋^やへ^へお^おひ^ひ来^きり お 長 見 下 帯 の 緒 え

ら^らと^とお^おり^りが^が機^{はた}綿^{わた}は^は二^には^はみ^みを^をさ^さる^る
さ^ささ^さ 長 見 下 帯 の 緒 え 長 見 下 帯 の 緒 え
あ^あの^のこ^こご^ごら^らじ^じや^やせ 新 見 下 帯 の 緒 え 長 見 下 帯 の 緒 え
出^で来^きあ^あい^いう^うあ^あん^んで^でも^も丈^{ちやう}丈^{じやう}む^むき^きを^をし^しら^られ
長 見 下 帯 の 緒 え 長 見 下 帯 の 緒 え
お^おけ^けま^ませ^せう^う お 長 見 下 帯 の 緒 え 長 見 下 帯 の 緒 え
七^{しち}分^{ぶん}三^{さん}ト^ト本^{ほん}屋^やの^の下^か帯^{おび}地^ぢが^が二^に分^{ぶん}七^{しち}ト^ト
く^くて^て十^{じゅう}分^{ぶん}で^でら^らさ^さり^りす^す お 長 見 下 帯 の 緒 え 長 見 下 帯 の 緒 え

志をこのへいりちい

高賣

麒麟と獅子これやりを物し

あんと志を公先南洲のやうきさうんふ

志きくをさでくぬとく高がたや

身りトや福小き公もこれらも是ら

商人ふるトトやちるまいう

さむしやそんあつあくあき内子

いこころしそりだん六別出あ

くる物賣あをきけを獅子ときん

ぎんトそをきりんく

地産

四海一統子角と志くすき玉子れ

君が代ち志むぢんの魁もかえつ

志ごとあけ志はやりらよあやでき

トせかあめい一麻島の神のまん

もつぐもかりてーつがへらふせめこと
 おゆもあせぬ土の上へツクいざーてハ
 由アとどどー牛んざいらくと唄ーハ
 ぶくべくおさくどとく之通りの人々立
 とふり ア ちよハ地ーんの髭とツク
 ぶがそせねら由アさうあものぞがた
 せゆらぐぬの ザ ねらぬ内記があるがぬ
 一ト ザ 濁るふゆくのど

馬好

イ イヤ モ 是くくふく ホ 色色坊オー
 せんふさのてく ウ ぬいど ハ 半六 キ 津名ハ
 やそり先幸乃通り馬右忠の辰と中ま
 ますら ナ イ アイヤ ナ 南時 ホ てハ馬太丈 ウ
ア 改まー イ してさく ウ きてハ エ 加ら
 了 ガ ぶ ハ さま ニ ぞ ハ なる ナ 国 ハ イ ヒ ー ヒ
 ー ウ ぢ ウ

ふーぎやあつがーの市の酒樽より
おやむん乃由うまいたつた色と利
重時むんとう大おんはけやアくは保
しうがまとももぶうらびのめらうんで
志ろん坊中せうのもれけせう乃のう
へんとうハナシ七星のこもつぐりめあ
とぶア四とも九曜くよがたりませぬ
掛ウケ乞ヒ

大晦日のむんあるひんう小拭をまじが
家内みろをヤカ遊ユく内小登カをカかけとりも
あきまゝあがまハうまんである所トへ又
いハく拭をまじりていハく由お掃ひて
のぞきまじめば内ウチの拭をていハく由を
めルまていハくりまじりハ利の拭をイヤこの
せつまはハんああまハふハまハアハいハぬサア
とふまハるのハ内ウチの拭をハイめんがく

まじひもござりませぬ

一角

らるほ家どの子代よりつがよある時
古花どてらひひつとくどきけせむ代
あまのいやまよくせうあまのまへ
虫をおくはほ家まきこみ子まやく懐
中ちのことがみよりふとるををいご
せーがけしーらるふナモノ物ちまきぬ

けづるへきやうあく大ききよ氣をもみつ
よと合せいとせし神の力を持てこれ一
角をうちあふふ船一かまひ男小乃
せせし年ときめうてうらひくと一今とあふ
まばふ一ぎや一角おのびとま舞よりかの
ごけのせあうとびつくとおとふとひじく
こふあつらりよ代あまのりや一こさふ
よくつてんまじひさめけし

おんべつおつぎやう神マアソウ者さい
さん之方うきまおくも天てん王わうの神しん威い下げてあうく
おんべいあるどかつく方かたふふららびびぎぎおのれ
まむまぎぞハおらまぬぞ神アアそハ私わがが
いそおひひ神ロロハハいいままののままささ
とといいままああてて、神氣きががままんんててん

中ちゆう一いつふふ

ちうじんぎやのよゝのるじんぬきをむの

くくそそももいいととんんびびつつどどんんぎぎああふふててののまま
咳せきーーヤヤオオトトヘヘゲゲーーララビビイイララーーけけにに
笑助すけイイヤヤおおららいいおおそそららくくつつくくつつくくちちかかぬぬ
おハ私わがーー門女にょムムそそおおででいいめめつつじじいい物ものををははじじ
つつららくく門天てんゆゆココヨヨおおままががままちちののととーー門七しち候こう
くく唐からの方かたつつららししががまま時ときららををおおづづらら
中ちゆうホホーーててををおおふふららんんままままくく毎まい日にち千せんりり
づづののつつくくああららいい門ままののととーーててままららとと

いふものハアアどんあものぞ林園ぢんのあやハ
林林こふれあやあものこ回して
あくこ急ハ園ムシレハアア ころふせんく

辨天

そ文法をへがしてつひつめふちとまを
与船どのけふハ内くらおさいせん文振り
つめしゆつせ糸を天へすりどまを法
金をつらとりふるほしめ法といひのそ

そ世とより我が家へ語り 傳 かいま

そつとそぞや か やましくすちか所

中 五 由イヤ 時ふそあさこころおあり

中 二 兵天極のやうふしておかまう書

思つと ま 清あのださいとそぶ氣

成 く せくけ油まお廿四文でかあて

き る か ち 子 おまもとくくあひひす

あや そ やま ち づ つ ち つ ち つ ち つ 十二

あてつあまは仕る師 大きふやまきこみ
おまやアグどつこまがあぶらおまが舞

酒真

そや開帳もおへぬまをまらあつあ
のを合どもららひいあま酒を
賞みあくたのしすふにころとほめ
ける先ハけおてごりおはるのまどり
おくより一をたて板ふあ流きべん

ざいてんてかいつとむとふくさん
おんいさしておまのひけてあろ
るリ一立くハ福ジャウ乃まどり
もんつるさんてん

流事

百年まきの流すゆあくまえあ
つして福りけるぢづろどうおま
乃つくこのよまて本のませんべいの

ぐくじもめざしひやうし

梵論

虚無僧ある門ノ立ろ尺ハをそく
（こひそく）
 けふとてし （二） ありふむと免んと
 ばつしきおとまじきんむ （一）
 こせしとてし （二） のし （一）
 ありふむと免んとつちげせし
 つかつてし （一） せし （二）

ゆきふらのちや （一） せし （二） せし （三）
 ありんとてし （一） せし （二） せし （三）
 ありとてし （一） せし （二） せし （三）
 とちおん （一） せし （二） せし （三）
 せし （一） せし （二） せし （三）

質屋

けまる物で武分がて

おくれとまらなむらあかて合し

し整て行あをりし〜何うあ

てまぬまほしむらうちとん(

禪さく何れを何もあさ物とるん

土手

志^まま^まう^うり^りひ^ひこ^こら^られ^れども^{ども}金^{かね}が^があ^あー
 中^{ちゆう}く^く写^{しゃ}時^{とき}を^をみ^み肉^{にく}を^をぬ^ぬけ^けて^て出^でて
 雙^{さう}念^{ねん}く^くゆ^ゆた^たけ^け羽^は織^{おり}で^で部^ぶ分^{ぶん}か^かー^ーそ^そト
 さ^さん^んと^とん^んを^をひ^ひと^と羽^は織^{おり}で^では^は部^ぶ分^{ぶん}と
 上^{じやう}ま^ませ^せぬ^ぬを^を脇^{わき}拵^{じゆ}あ^あー^ー二^に分^{ぶん}上^{じやう}ま
 せ^せふ^ふと^とら^らぬ^ぬと^とそ^それ^れは^はう^うち^ちも^も金^{かね}長^{なが}び^びが
 け^けら^らい^い大^{だい}ぢ^ぢん^んぬ^ぬら^らそ^そう^うだ^だと^とい^いあ^あー
 丸^{まる}ご^ごー^ーぶ^ぶら^ら細^こい^いそ^そん^んあ^あー^ー一^一分^{ぶん}で
 も^もた^たく^くて^てり^りや^や羽^は折^おと^とぬ^ぬり^りで^で一^一分
 う^うけ^けり^りま^まま^まお^お土^ち手^てか^から^らと^とば^ばー
 一^一ち^ちう^う大^{だい}男^{おとこ}が^がひ^ひつ^つこ^こぬ^ぬり^りて^て肩^{かた}先^{さき}

十四

十四

をどろりさうゆる金長と後務の
柄つらのまうけと深ふかきあはだぬく
るこもあぶらうくとたをれて
はかやかあるゆとあつた
やつらん服袴で式合かりふ

心申

どうあつても死あひをぬぬ
づくめあてん申すまのふさ
どうものゆふけ二階かきとけがさ
孰なとぬけ出てかけぬひのあひ
死しかちやうくまのひ出いてまのひ周まるまを
小こでうちんでぬりりりが胃いてちん

とつと吹けず女男のよとてあしく
 かちあつてうゝ迎あんせあまひひあま
 ちさうしはあまきさしおんこうしあだ
 たるあけ場よあてどれがあまのあま
 あまのであまいあらうそくがまらう
 うゝあつてうゝあまそれけけけ
 あんーたく男たてこがー切て
 へあしがひらうあまあまあまあま

あまあま

あれはあまふぬこがあるまあ初
 舎う大門を送て出てあまあま
 りるも床花をちやう名床を色

もちろん ひと

抽日中くそくハ勿論をんが年一
 りと云ふぬ申之の多くやぶがくひ
 たいあんとあろくの はあはのきま
 ありやぶくを信をやぶるもあは
 さまのひがそまやぶるは志はひの介
 ち力と志をくれつと たふす

隠居

伊中 さい 伊中のおおれ いんまきよ 隠居
 度くいまき物日の仕舞
 うけしき あは あは全も申しぬが
 そふの用は何でもまかすといふが
 ぞれど い ーがーのあやんせん

何ぞ一ツ後ハ付てらんなんせのむを
人氣や^{たん}取^うれらんのおいさあある人
すもりのもあつらんあつ一年中
つよぬし楊枝とまけし

回

女ト寢のり人まよものちあつれを
ぬりしりし珠粒を知しけむが
珊瑚珠これが琥珀これが馬腦これが
金これハ銀とむけしをまらちふ
さる者もずをらんあつしあつ
けしぬ油とりがらさ地ざりしり
あんあつる志もあつらんす

の末へ「りちうん」急のまじけハ
初はつ夜よであらふ「それく初はつ葺づけハ何
う出いまうの「あれもね」物や
んせ「らら」あやうい「サア
初はつ夜よハ「あれもね」ねとあつ
てくまけハ「りてんく

裏

是こゝの今いまハ初はつ會かいのお客きやくがごさう
まゐる名な代だいでもおれらあま
て客きやくこれくがハ二度めでおぢや
初はつ會かいの客きやくあ「あが方かた」出いま
物もの「お世よ々々あまらあ」

世の

指しして見せしめり客まよきげく
世も外れどもいせにむじ
素もなめしむと云てまじく一産
お世もいせりやいせりべつせ
アヤムル客のあらんけ市集
がかりしものだと云れ

金魚

ふかい茶碗へ金魚を入れて新産
あつらひまりそれそれまじ
又藤の下へまじりこもりのんで
病を治すつげてどれそのまじ
お金魚ごと心のもりくうく

「あひのつらひんけん」た

狼

中おん狼らみがわくをきくあふ客

とびやくと喰くてはがりくく歯

よける物を掃うのくみのやうにさる

よむいふ又まのやうと喰くてはがりく

くふおとあうくと喰くてはがりく

のくく武米狼で歯がゆる地ふらふ

土籠

大根畠たいこんはたけの土籠つちかごをいり

んあひくくく人まのいり

栗栗嵐嵐ふいり地ちをいり

救

江戸の内でも本所りんちよへんの救たは

さんまて下町げにおおハすさと居ませ

ぬぬ何なもも一い度ど理りどどささじじららくくここししを

ささふふだだささ回わ一い戸こののううちちゆゆくく救きう小

多たいいくくななりりハハいいぢぢぢぢぬぬがが江え戸こ筋ぢハ

本ほん所じよとと遠とほつつてて人ひとがが極ごく多たいいな

救きうののままりりがが遠とほいいののここ

氣

けけははいいくくがが内うちくく氣きがが大だいづづんん出でて

ここゑゑるるここゑゑハハ素すふふたた中ちゆう一いちちががあ

るるそそののいいぢぢぢぢててすすがが粉こな糖ぢやうとと能たう

りつて候もちのりりとすまままむむびびち
 ろろのの表おもてめめてて極たぎ上うへににむ
 ののささいい——それそれははまままま——ああいいりり——いいままささ——
 ままくくああくくとと氣きががままままててははななめめままくく
 ははななめめ——そのそのちちはは尻しつぽ尾び平へい——は
 ありありまままま

